

本資料のうち、黒塗りの箇所は営業秘密及び個人情報に該当するため公開できません。

調査データのトレーサビリティの確認結果

元となるデータ: コア観察カード

令和4年12月9日

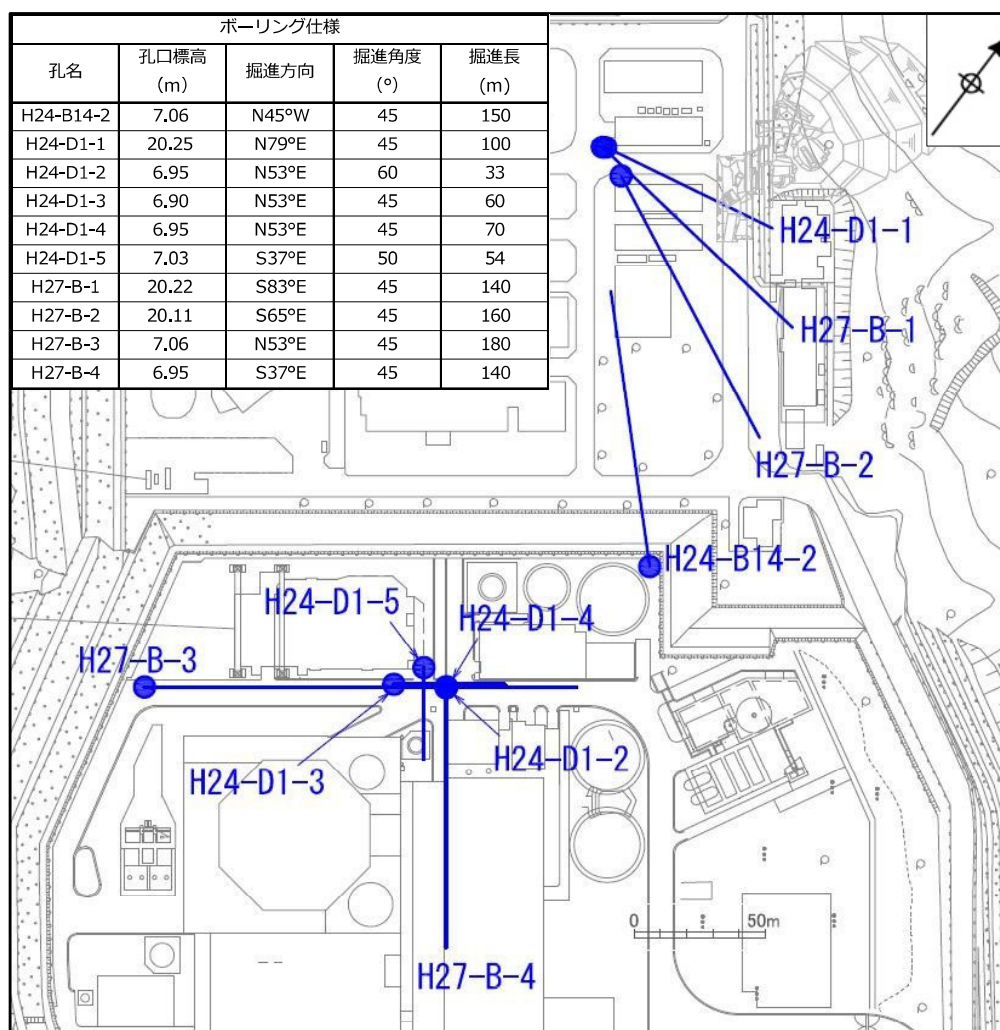
日本原子力発電株式会社

余白

目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	3-5-5
H27-B-1 ※	3-5-29
H27-B-2 ※	3-5-61
H24-B14-2	3-5-97
H24-D1-3	3-5-131
H24-D1-2	3-5-147
H24-D1-4	3-5-157
H27-B-3 ※	3-5-175
H27-B-4 ※	3-5-213
H24-D1-5	3-5-245

※H27-B-1, H27-B-2, H27-B-3, H27-B-4のコア観察カードについては、第916回審査会合（令和2年10月30日）において机上配布資料1として提示している



ボーリング調査位置図

余白

H24-D1-1

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日		
		D1-1		3/12		
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	地質名	色調	堆積構造・特徴等
			マーカー 火山灰物 ○ 炭質土 ㄣ 化石 〇 貝片 □ 木片 □			
0.5			埋戻し土			0~4.23m:埋戻し土 0~3.00m 粗中砂、3.00~4.00m 粗細砂、 4.00~4.23m 粗砂層。各土層境界は漸 移的で明確な境界は認められない。 0~3.00m 均等に中砂で、φ2~3mm の石英粒が点在する。
1			埋戻し土 (中砂)		10R 6/4 R 6/4 R 6/4	
0.5			埋戻し土			埋戻し土
2			埋戻し土			1.170~2.00m に φ5~10mm (最大φ30mm) の Gp 部片が多少 含む
0.5			埋戻し土			
3	3.00		埋戻し土			2.86m の中で、L ₁ -L ₂ の 2層が埋入。埋入時は 濃入したと推定される。
0.5			埋戻し土			3.00~4.00m φ2~5mm (最大10mm) の Gp 部片が埋入材粗砂 中に散在する。
4			埋戻し土			

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日				
		D1-1		3/12				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ		地質名	色調	堆積構造・特徴等
				灰質土 火成土 土質 木片	石 化石 R O O			
4	4.00							
	4.16							埋戻し
	4.33							4.33m
0.5								
	4.33							③層で、砂礫層に砂、中砂~粗砂、局部的に中~粗礫層は認められる。
	4.33							4.33~5.05m: 砂礫
	4.33							φ2~5mm 石英粒、φ5~20mm Gp 互層~互角層を主とし、埋戻し砂、砂礫層に認められる。基盤は中~粗砂、中砂~粗砂、礫含有率 30~40%
	4.33							4.33m, 4.89m に幅 10~20mm、幅 5mm の炭化物層を含む。
	4.33							5.05~5.45m: 粗砂
	4.33							φ1~3mm 石英粒を多く含む。中~粗砂。
	4.33							5.20m に φ10mm の中~粗砂を含む。
	4.33							5.45~6.33m: 礫
	4.33							φ30~280mm (一部) の埋戻し型粗礫、0.5m 程度、粗砂~粗礫は分布しない。
	4.33							6.33~6.59m: 砂礫
	4.33							φ2~20mm Gp の互層~互角層の埋戻し礫と、中砂~粗砂の砂礫を基盤とし、礫含有率は 30% 前後、砂礫層に炭化物層や炭化物層の残片を含む。
	4.33							6.59~6.72m: 中~粗砂
	4.33							埋戻し、φ1~2mm の石英粒、長石粒、岩片を含む。中、炭化物層や炭化物の残片を含む。
	4.33							6.72~6.78m: 粘土
	4.33							傾斜 20° 幅 40~50mm の粘土に φ10mm 埋戻し Gp 岩片を含む。
	4.33							6.78~7.00m: 中砂
	4.33							6.78~7.00m に φ5~10mm (最大 30mm) の互層礫を含む。
	4.33							7.00~8.84m は 砂礫層に中砂と、φ2~3mm の石英粒や Gp 岩片が点在する。
	4.33							φ5mm 以上の礫はほとんど含まれない。
	4.33							堆積構造は認められない。

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		D1-1		3/12			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ- ○ 灰物 ▽ 炭質土 ■ 燧石 □ 木片	地質名	色調	堆積構造・特徴等
0.5	0.5				砂	10YR 6/4 15%黄橙	<p>0.00mにφ60mm Gr 圓形礫10%分布。</p> <p>0.30m、50幅10~20mmでφ2~4mmの石英粒、長石粒、Gr礫片が多数含まれる。</p> <p>0.32~0.50m間は粗砂が主体。</p> <p>0.54mで粗砂層に漸次移行。(明瞭な境界あり)</p> <p>0.84~0.98m: 粗砂 φ1~2mm 石英粒、長石粒を多数含む(最大10mm Gr礫片) 全体に中砂。</p> <p>堆積構造は認められない。</p> <p>0.940に長さ40mm、幅20mm、厚2.3~5mmの Gr 粗粒礫1%含む。</p>
0.5	9.48				砂礫	5YR 6/3 15%黄橙	<p>9.48~10.25m: 砂礫</p> <p>φ2~5mm 石英粒、φ5~70mm Gr 圓形礫と、中砂~粗砂の基質から成る。礫含有率は30%前後で、大半が粗粒礫である。</p> <p>基質は全体に中~細砂を帯びる。</p>
0.5	10.25				砂	10YR 6/4 15%黄橙	<p>10.25~11.00m: 中砂</p> <p>上端側の10.25~10.50mは礫の粘粒土を多数含むこの区、10.50~10.58mは炭化物片を多数含む層である。</p> <p>10.58m以下はφ2~3mm 石英粒、Gr礫片(最大は15~20mm 礫片~礫片)を少量含む。粘粒を帯びる。</p> <p>10.53~10.55mは炭化物片を多数含む。</p> <p>堆積構造は認められない。</p>
0.5	11.00				砂礫	10YR 5/4 15%黄橙	<p>11.00~12.15m: 砂礫</p> <p>φ2~5mm 石英粒、φ10~160mm Gr 圓形礫を多数含む。中~粗砂の中~粗砂の基質から成る。</p> <p>礫含有率は40~50%</p> <p>11.80~12.15mはφ10~20mmの礫片が多数含まれる。</p> <p>11.00~11.05mと11.20~11.25mの基質の一部は、マゼンタ色に鉄燻色化が認められる。</p>
0.5	11.80				砂礫	10YR 6/4 15%黄橙	

③層

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭----- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		[REDACTED]				孔番	D1-1	観察日	3/12
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ 灰物 山質 化石 土壌 炭 貝 木	地質名	色調	堆積構造・特徴等		
12	12.20				Gp	12.20m 以下 層	↓ ③層		

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭---- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度		観察日										
		D1-1 (12.15 ~ 15.00)		3/12										
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質					
11														
12	12.20 12.30			10R 4/4 Rの黄緑									12.20 ~ 12.30 10R 4/4 Rの黄緑 12.20 ~ (18.10) m 風化して硬さは「D」となり、若くは軟化して「E」となり。 深度18.10 m付近では硬さD (高級石CL) の硬さE (同・CL板) とくり返す (ただし硬さ「E」が主体)。 変質粘土部も粘土脈の帯は少ない。 割れ目は風化で割れ目しているところが多い。 割れ目の一部は、2.5cm 程度に別れ、黒褐色の 全般に硬さ「E」の硬さ、岩組織と、割れ目が残 留している。 割れ目は、10~30割れ目が主体で、一部は、この割 れ目に60~80割れ目が変質する。	
13	0.5		Gp	10R 7/2 Rの黄緑						D 7				
14	0.5									D 4				
15										D 8				14.78 ~ 15.10 連続の硬さ「E」の硬さ部と 残留している。

調査名		孔番・深度		D1-1 (1500~2000)		観察日		3/12					
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
0.5	15.59				c	v	E	δ	3		D		・15.54~15.59 割れ目に厚20.5mm 白色軟弱粘土は22層。 ・15.60~15.74 1割れ目E 60-90°の斜面に連続的に厚20.5mm 白色軟弱粘土は22層。 ・15.75~15.80 大型の長石斑晶が分布。
1.0	15.93						D				CL		
1.5	16.23						E				D		・16.07 50° 傾斜に割れ目。石英斑晶Eに連続し、60° 交角の割れ目Eに2層 (変位量2-4mm 傾斜)
2.0	16.53		Gp				D				CL		・16.71 24° 傾斜0.5-1mm 石英脈
2.5	17.08									0	9		
3.0	17.58						E				D		
3.5	17.86			10ヶ所 7/2 12ヶ所 破片									
4.0	18.10				c	v	d	δ	3		5		・18.10~18.00m 風化に伴って割れ目の消滅(10ヶ所)。 ・18.16 40° 傾斜の割れ目Eの一部は幅6-10mm 石英緑泥化(粘土化に伴って)。 ・18.30m 20° 傾斜の割れ目Eの一部は深部で黒色化。
4.5	18.58				d	v							
5.0	19.08						E				D		・19.00~19.08 m 割れ目Eに石英斑晶が一部消滅。 ・19.60~19.83 硬さEの割れ目Eの一部は厚さ10-20mm 割れ目Eに残留(2ヶ所)。
5.5	19.58				c	v							
6.0	19.88										3		・19.88~20.25m 割れ目中岩組織は大部分消滅(2ヶ所)。

調査名		孔番・深度		観察日								
		D/1 (20 ~ 25)		3/13								
標尺 (m) ²⁰	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
0.5	20.09		Gp	10YR 7/2 黄橙	L VI	E	δ	3		D		20.16 ~ 20.19 m は上部5°、下部15°で、上部の一部で不明瞭、下部はほぼ垂直的に連続する幅30 ~ 35 mm の粘土化部が多く、粘土質砂岩で、圧白(10YR 9/2) ~ 10YR 7/2 を呈す。
	20.16											
	20.17											
	20.25											
	20.54											
2.1	20.63		25YR 7/2 明褐灰	C V	E			0	3	D		・20.16 m 以外、ほぼ 5 ~ 10 mm の片角が主体で、粘土化部は少なく、著しく軟化した。 20.09 m 付近は、幅 5 ~ 20 mm で、淡緑色化。 20.25 ~ 21.04 m 全体的に割れ目状態は、V 型で、岩組織が割れ目には消滅せずに残留するものが多い。20.25 ~ 20.54 m と 20.77 ~ 21.04 m は著しく軟化した。 20.54 ~ 20.77 m は硬さ D と硬さ O 呈現。 割れ目は 20° 前後が主体で、幅 1 ~ 2 mm の軟弱な圧白、褐色の粘土化部はほとんどない。 20.65 ~ 21.04 m、10 ~ 30° の角化で消滅し、割れ目には幅 5 ~ 15 mm の粘土化(10YR 7/6)を呈し、一部で砂化化する。 21.04 ~ (24.53) m 硬さ O の砂岩が、局部的には割れ目には軟化岩 (O 3) 部を含む。 割れ目と岩組織は明瞭に残留する。 割れ目は 10 ~ 35° が主体で、粘土は 60 ~ 80° 割れ目と一致する。 割れ目の一部は、 ^{1mm} 2.5 mm と 2.5 mm の粘土化部を含む。幅の粘土化部は分布する。 22.97 m、26° 割れ目、幅 2 ~ 3 mm の軟弱な黄橙色(10YR 7/6)粘土化部を呈す。 23.13 m、50° の軟弱な割れ目で、交差する割れ目がある。一部に軟弱な幅 0.5 mm の白色粘土化部を呈す。 23.40 m、75 ~ 80° 部湾曲した軟弱な割れ目。23.41 m 交差する 25° 割れ目を含む(変位量 7 mm、粘土化)。 23.58 m、50° 幅 1 ~ 2 mm の砂岩、密着する。
	20.77											
	21.04											
0.5	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C V	E			0	3	D		
	21.04											
2.2	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
0.5	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
2.3	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
0.5	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
2.4	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
0.5	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
2.5	21.04		25YR 7/2 明褐灰	C IV	D			12	12	C2		
	21.04											
0.5	24.53		25YR 7/2 明褐灰	C V	E	δ	3	0	6			
	24.53											

調査名		孔番・深度		D1-1 (25 ~ 30)		観察日		3/6					
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
05				254R 7/2 明濁灰								23.71 m. 30割目の下盤割 幅10mmの一部は塊状化が 顕著な状態に付存するが、0.5mm以下に微細な結晶 物も認められる。 24.53~26.53 m 7割目にて、塊状化「D」が主体に付存し、7割目にて塊状化 著しい塊状「E」も認められる。 塊状「E」の粗粒構造が割目には残存しているものが大 事だ。塊状「D」も認められる。全体の割目は10~50割目 の一部で10~50割目は60~70割目が「E」だ。 多くの割目には塊状化が認められ、結晶化が顕著な部分 は付存する。一部は2割目前後の黒褐色化が 付着し、交差割目も認められる。比較的2割目に連続した せん断性割目も分布する。	
26									0	5			
05	26.50											25.05 m. 35割目にて幅10~20mmの塊状化の一部が認め られる。 25.12 m. 40割目のせん断性割目で、交差割目も認められる。 周囲10mmに0.5mm以下の微細な結晶物も認められ、正 割目には幅0.5mmの結晶塊状が認められる。	
27			Gp						0	7			26.50.22~27.04 m. 35割目前後の塊状化が、全体の 塊状化が認められる。一部は幅0.5mmの塊状化が認められ、 粗粒構造は残存する。 27.21 m. 34割目のせん断性割目で、交差割目も認められる。 割目自体は1~3割目前後の塊状化が認められる。 27.54~27.64 m. は40割目前後の塊状化が認められ、 塊状化が認められる。一部は塊状化が認められる。 27.81 m. 32割目のせん断性割目で、交差割目も認められる。 割目自体は1~2割目前後の塊状化が認められる。 27.81~27.90 m. は幅0.5~2mmの塊状化が認められる。 28.14.34~28.23.20 m. は2割目前後の塊状化が認められ、 塊状化が認められる。一部は塊状化が認められる。
05				7.54R 6/3 明濁灰									28.68 m. 43割目のせん断性割目で、交差割目も認められる。 下盤割に幅1mmの石炭線が認められる。 28.68 m. 44割目のせん断性割目で、交差割目も認められる。 認められる。
29									16	16			29.30~29.33 m. は10~30割目にて用化に付、塊状化 が認められる。割目自体は塊状化が認められる。
05	29.34			254R 6/3 明濁灰									29.93~30.53 m. は2割目前後の塊状化が認められる。
30									0	4			

7.54R 7/2
明濁灰

調査名		孔番・深度		観察日								
		D1-1 (35 ~ 40)		3/8, 3/19								
標尺 (m) ^{0.5}	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
05	35.20 35.26			2.5YR 7.5/1								
36	35.96			7.5YR 7/2 明褐色	c	v	C	δ	3			35.26 ~ 35.96 m 硬土の硬質、割れ目は主に層状の割れ目。
05	36.84		Gp		c	v	D					35.95 ~ 36.81 m. 一部の風化は割れ目(粘土質の部分を含む)粘土質硬土D の分布。粘土化と粘土化の分布は割れ目と一致。粘土質硬土 の白濁~軟弱化あり。
37	37.41			10YR 6/6 明黄褐色					0	4		割れ目は10~40°と、主に斜交~直交の50~70°割れ目あり。 割れ目の一部は粘土質の部分を含む。
05				7.5YR 7/2 明褐色								36.45 ~ 37.47 m は上端35.0 m 割れ目の開き、粘土化の 進んだ部分で、2~4%の石炭質、φ0.25mm以下の角状砂を 含む。色調は淡緑色化(2.5Y 7/1, 明黄褐色)あり。
38									10	10		38.00.45 ~ 38.14 m、60°の割れ目全体φ10mm前後の 部分に分布あり。
05	38.21											38.52 m、42°の斜交割れ目と直交の割れ目と一致あり。 明褐色(7.5YR 7/2)、幅3~8mmの軟弱な粘土化は分布あり。
39	39.54				d	v	E		0	4	D	38.01 ~ 39.24 m 39.04 ~ 39.12 m は硬土の部分を含む。これ以外は層状 粘土化の硬土Eである。 39.14 m、150幅1~2mmの軟弱な白色粘土化は分布あり。
05					c	v	C	δ	3		C2	39.24 ~ 40.17 m 42°の斜交割れ目と、割れ目の一部は風化の粘土化あり。 20~40°割れ目と、主に斜交~直交の60~80°割れ目と一 致あり。部分的に幅1~2mmの粘土化は分布あり。
40					d	v	E		0	5	D	39.67 m、44°の斜交割れ目と、直交の割れ目と一致あり。70°前後の割れ目あり。

調査名		孔番・深度		観察日								
		01-1 (40 ~ 45)		3/19								
標尺 (m) ⁴⁰	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	40.17				v							40.00m ~ 40.14m まで40°割れ目あり(軟化部)
	40.69				c	iv	c	0	3		C _L	40.17 ~ 40.69m 上には40°割れ目あり(軟化部) 40.47m・25°と40.50m・30°の割れ目(軟化部)あり(軟化部) 40.74m・45°の割れ目あり
15+12 41	41.18				v	d			27	15		40.69 ~ 41.18m 30~40°割れ目主体で、一部は消滅している。 割れ目内には砂化あり。 また、一部の割れ目には幅1~2mmの軟弱な粘土を挟みこむ。
	41.45		Gp	7.5YR 7/2 明褐色	d	vi	E					41.18 ~ 41.45m 一部で割れ目は消滅するが、大部分で消滅(2nd)。 若しくは明褐色に残留するが、コア全長に著しく軟化(2nd)。
	42.23				c	v	d					41.45 ~ 42.23m 30~40°の割れ目主体で、割れ目内には砂化あり(一部は砂化部が厚い)。
92	42.50				d	vi	E					42.23 ~ 42.50m 幅1~3mmの軟弱な粘土が網状に分布し、全体が軟化部(1)。 42.25m・42°の割れ目(幅5~10mm)の軟弱な粘土を挟みこむ。 42.49m・30°の割れ目(幅1~2mm)の軟弱な粘土を挟みこむ(5YR 5/3)の粘土を挟みこむ。
	43.06			7.5YR 6/4 灰褐色	c	v	d	0	3			42.50 ~ 43.06m 10~40°の割れ目(低密度)が主体で、割れ目内には砂化(1)。 一部は幅1~2mmの粘土(5YR 6/3)の軟弱な粘土を挟みこむ。 43.15m・15°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.20m・30°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.25m・45°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。
93	43.56				c	v	d	0	3			43.06 ~ 43.56m 10~40°の割れ目(低密度)が主体で、割れ目内には砂化(1)。 一部は幅1~2mmの粘土(5YR 6/3)の軟弱な粘土を挟みこむ。 43.15m・15°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.20m・30°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.25m・45°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。
	44.08											43.56 ~ 44.08m 10~40°の割れ目(低密度)が主体で、割れ目内には砂化(1)。 一部は幅1~2mmの粘土(5YR 6/3)の軟弱な粘土を挟みこむ。 43.15m・15°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.20m・30°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.25m・45°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。
44	44.56				d	vi	E					44.08 ~ 44.56m 10~40°の割れ目(低密度)が主体で、割れ目内には砂化(1)。 一部は幅1~2mmの粘土(5YR 6/3)の軟弱な粘土を挟みこむ。 43.15m・15°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.20m・30°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.25m・45°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。
	45.91											44.56 ~ 45.91m 10~40°の割れ目(低密度)が主体で、割れ目内には砂化(1)。 一部は幅1~2mmの粘土(5YR 6/3)の軟弱な粘土を挟みこむ。 43.15m・15°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.20m・30°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.25m・45°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。
45												45.91 ~ 46.00m 10~40°の割れ目(低密度)が主体で、割れ目内には砂化(1)。 一部は幅1~2mmの粘土(5YR 6/3)の軟弱な粘土を挟みこむ。 43.15m・15°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.20m・30°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。 43.25m・45°の割れ目(幅1~2mm)の粘土を挟みこむ。

調査名		孔番・深度		観察日								
		D-1 (30 ~ 55)		3/20 3/24								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
50			Gp	7.5YR 7/2 明褐色	d	V1	E	δ	3	D		<p>49.82 ~ 49.84 m: Hc-1 (主断面・49.84m)</p> <p>上端44°、下端43°で、上端は近軸的の20°に連続、下端はP-2割れ目から連続 φ12mmの石英粒を少量含む軟弱な粘土で、明褐色を呈す。厚は10mm</p> <p>49.84 ~ 49.91 m: HJ</p> <p>φ2 ~ 20mmの大サイズの粗粒の消滅したGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は20mm</p> <p>上端43°、下端30°で、上端は近軸的の20°に連続、下端はP-2割れ目</p>
51	50.10 51.23			7.5YR 6/4 10の橙					3			<p>49.91 ~ 50.77 m</p> <p>一部でφ10 ~ 50mmの粗粒の消滅したGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は20mm</p> <p>残存した割れ目は60°と30°の斜交で30°割れ目は主体で、割れ目と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は20mm</p> <p>50.70 ~ 50.77 mは下記の性状を呈す。上端50°、下端65°で、両者は近軸的の20°に連続、下端の一部はφ10 ~ 3mmの粗粒の消滅したGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は30 ~ 70mmと連続する。</p>
52	51.40 51.69			7.5YR 6/2 灰褐色					4	Cc		<p>50.77 ~ 51.69 m</p> <p>φ5 ~ 10mmの岩片と粘土に少量の消滅したGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は20mm</p> <p>51.12 ~ 51.24 mは約40°で、上端部が硬く連続した消滅したGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は10mm</p>
53	52.20								2			<p>51.69 ~ 52.20 m</p> <p>硬土で、P-2割れ目と、50°60°と30°の斜交の割れ目がある。</p> <p>52.20 ~ 53.77 m</p> <p>若くは軟化したφ5 ~ 20mmの岩片の消滅したGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は20mm</p>
54	53.48			10YR 6/3 10の黄橙					3	D		<p>53.77 ~ 54.54 m: Hb</p> <p>53.77 ~ 53.80 m: Hc-2 (主断面・53.77m)</p> <p>上端65°、下端60°で、両者は近軸的の20°に連続、φ12mmの石英粒を少量含む岩片は含まない軟弱な灰褐色粘土、厚は15mm</p> <p>53.80 ~ 53.90 m: HJ</p> <p>φ1 ~ 4mmの石英粒を10mm程度の粘土に岩片と岩片間の部分に白色粘土に粘土混り岩片状で、圧縮色を呈す。厚は100 ~ 160mm</p> <p>53.90 ~ 53.93 m: Hc-2</p> <p>上端65°、下端20°で、上端は近軸的の20°、下端はP-2割れ目に連続</p> <p>53.90 ~ 53.93 m: Hc-2</p> <p>上端20°、下端25°で、上端はP-2割れ目、下端は近軸的の20°に連続</p> <p>少量のφ12mmの石英粒とφ10mm程度の粘土に偏平なGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は25 ~ 30mm</p>
55	54.38 54.45 54.54							3			<p>53.93 ~ 54.06 m: Hb</p> <p>上端25°、下端60°で、両者は近軸的の20°に連続、φ1 ~ 5mmの石英粒とφ5 ~ 10mmの粘土に偏平なGp岩片と岩片間の部分の軟弱な白色粘土に粘土混り岩片状で、明褐色を呈す。厚は100 ~ 160mm</p>	

3/20

調査名		孔番・深度		観察日								
		D1-1 (60 ~ 65)		3/25								
標尺 (m)60	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
05	60.12 60.15		立地帯	d	r1	E	δ	3		D	Hb	59.05 ~ 59.16 m: Hb 上端45° 下端40°、上端は連続的20~30°、下端はP>液打して連続。φ1~2mm 石英粒とφ5mm前後の粘土化石灰片が含む煤層粘土で、粘土はやや滑り。石英粒と粘片の一部は20~30°の石英に一致して暗褐色化。色調は淡黄色で厚20~30mm
61	60.84		Gp	2.5YR 7/2 明褐灰					0	1		59.16 ~ 59.18 m: Hc-1 (主断面59.16m) 上端40° 下端35°、上端はP>液打し、下端は途中20°部で50°の連続的20~30°に連続。φ1mm程度の石英粒、石英粒と粘片は粘片と粘片の軟弱の粘土で、灰白~灰白色呈す。厚20~30mmと下端が凸凹と多少の膨縮あり。
05	61.32											59.18 ~ 59.30 m: Hb 上端35° 下端50°、上端は途中20°部で50°、下部部はP>液打して連続。 下部部は厚25~10mm、軟弱な灰白~灰黄色粘土化石灰片が多数を含む煤層粘土で粘土は滑り。厚25~10mmと圧黄~橙褐色呈し、厚290~70mm
62									0	2		59.30 ~ 59.62 m 70~80°とこれに斜交~垂直の20~30°割目の主帯で両側、大半が滑り満ちる。一部は割目幅1mmの軟弱の白色粘土層が分布する。 59.33mの割目幅0.3mmの煤層粘土は20°の石英粘土に分布する。
05	62.64											59.62 ~ 59.98 m 硬土と上層割目と20°、割目は10~15°の連続した砂岩~砂岩化石灰片。59.95m、80°幅0.5mmの軟弱の粘土層が20°の石英粘土に分布する。
63	63.00			2.5YR 6/2 灰褐					0	5		59.98 ~ 60.11 m 全体の軟化層(20°)。60.07m、70°幅0.5~1mmの白色軟弱の粘土層が10~15°の石英粘土に分布する。 (G断層)
05	63.39											60.12 ~ 60.15 m: 級別帯 Hb (主断面60.12m) 上端40° 下端45°、上端は連続的20~30°、下端はP>液打して連続。上下端は幅1mmの明褐色軟弱の粘土層。φ1~2mm 石英粒とφ5mm前後の粘土化石灰片が多数を含む軟弱の煤層粘土で灰白~灰黄色呈す。厚20~30mm
64												60.15 ~ 60.84 m 岩は軟化し、割目は滑り満ちる。岩組織は滑り満ちる。2~3mmの軟弱の白色粘土層が分布する。 60.46m、60°割目(平均L6°滑り20°)に幅10mm程度20~30°の石英受竹は粘土化
05												60.84 ~ 62.64 m 40~60°割目とこれに斜交~垂直の30~60°割目の主帯で、割目には滑り満ちる。割目には滑り満ちる。軟弱の粘土層が分布する。 61.16 ~ 61.80mの間はφ2~10mmと細く破碎した高硬な粘土質の基質は20~30°の石英受竹は粘土化。上下端は凹凸割目、連続的20~30°の石英受竹。
65									10	10		62.64 ~ 63.00 m 硬土と硬層20°。60°割目の主帯の粘土層が分布する。 63.00 ~ 63.39 m 40~60°とこれに斜交~垂直の20~30°割目の主帯。粘土層が分布する。割目には滑り満ちる。

調査名		孔番・深度		観察日									
		D1-7 (65~70)		8/25									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
65	65.44				c	v	c	δ	2				65.39~65.69m 互いに斜交~直交の40~60°の割れ目主体で、硬質(硬さ)。65.44~65.69m深部は割れ目の浅い砂状化が認められる。粘土脈はほとんど分布せず、変質も弱。
66	65.69		Gp	25YR 6/2 灰褐	c	v	c	γ	2	10	10	C2	65.69~67.43m 硬質で上位より割れ目はやや粗い。厚さは66.49m以下で、割れ目の面が広く、交代・粘化の程度、66.49m以下では硬質である。割れ目自体は交代・及び黄褐色化(主に黄褐色)が認められる。粘化は粘土部で粘土脈はわずかに分布するにすぎない。割れ目は20~40°と、これと斜交~直交の50~70°が主体である。割れ目の多くは20~30°の角度で、多くは粘化が伴っている。 66.10~66.65m中に5~10mmの角状の石英が多数分布。 ^{斑岩}
69	66.49			10YR 7/3 灰褐色				δ		21	11		67.08~67.22m φ5~10mmと大型の石英斑岩が多数分布。
68	67.43			25YR 6/2 灰褐	c	v	c	δ					67.43~67.70m 硬質であるが、上位より割れ目~変質が割れ目が多くなる。 67.55m、65°割れ目に幅0.5mmの軟弱な白色粘土脈が分布。これ以外には粘土脈や粘土部は分布しない。 67.78~67.85mは上下端60°割れ目に10°付いて全体で粘化が認められ、粘土は伴っている。
69	67.70				c	v	d	γ	3		b	D	67.70~68.32m 上位より変質(硬質)である。割れ目は互いに交差する40~50°の割れ目、一部に幅0.5~1mmの浅黄色粘土脈が認められる。 68.32~68.52m 幅1~3mmの軟弱な白色~黄色粘土脈が斜交に分布し、全体で軟化が認められる。 68.52m、70°の幅2~5mmの軟弱な白色~明黄色(10YR 6/6)粘土脈が断続的に認められ、これに連続する。 68.52~68.84m 全体に粘土の多い軟化層。 68.93m以下は幅1~3mmの軟弱な白色粘土が斜交に分布。 68.84~69.00m 破砕帯 68.84~68.93m HJ 上端50°、下端50°で、上端は下層、下端は上層で連続。 φ5~10mm粘土を主体とする粘土脈(粘土脈)が、明黄色~黄褐色(厚さ2~32mm)で68.93~68.95m Hb(主として上面)で68.93m)で連続。 上端50°、下端50°で、両端はPで連続。粘土脈は粘土に粘土を多く含む硬質粘土に付随する。硬質粘土は多く、上端は幅1~4mmの石英脈が黄褐色変質化。これ以外には粘土、厚さ20~30mm
70	68.32				d	v	E	δ					68.52m、70°の幅2~5mmの軟弱な白色~明黄色(10YR 6/6)粘土脈が断続的に認められ、これに連続する。 68.52~68.84m 全体に粘土の多い軟化層。 68.93m以下は幅1~3mmの軟弱な白色粘土が斜交に分布。 68.84~69.00m 破砕帯 68.84~68.93m HJ 上端50°、下端50°で、上端は下層、下端は上層で連続。 φ5~10mm粘土を主体とする粘土脈(粘土脈)が、明黄色~黄褐色(厚さ2~32mm)で68.93~68.95m Hb(主として上面)で68.93m)で連続。 上端50°、下端50°で、両端はPで連続。粘土脈は粘土に粘土を多く含む硬質粘土に付随する。硬質粘土は多く、上端は幅1~4mmの石英脈が黄褐色変質化。これ以外には粘土、厚さ20~30mm
70	68.52							δ					68.52~68.84m 全体に粘土の多い軟化層。 68.93m以下は幅1~3mmの軟弱な白色粘土が斜交に分布。 68.84~69.00m 破砕帯 68.84~68.93m HJ 上端50°、下端50°で、上端は下層、下端は上層で連続。 φ5~10mm粘土を主体とする粘土脈(粘土脈)が、明黄色~黄褐色(厚さ2~32mm)で68.93~68.95m Hb(主として上面)で68.93m)で連続。 上端50°、下端50°で、両端はPで連続。粘土脈は粘土に粘土を多く含む硬質粘土に付随する。硬質粘土は多く、上端は幅1~4mmの石英脈が黄褐色変質化。これ以外には粘土、厚さ20~30mm
70	68.73			25YR 6/2 灰褐	c	v	D	2				CL	68.84~69.00m 破砕帯 68.84~68.93m HJ 上端50°、下端50°で、上端は下層、下端は上層で連続。 φ5~10mm粘土を主体とする粘土脈(粘土脈)が、明黄色~黄褐色(厚さ2~32mm)で68.93~68.95m Hb(主として上面)で68.93m)で連続。 上端50°、下端50°で、両端はPで連続。粘土脈は粘土に粘土を多く含む硬質粘土に付随する。硬質粘土は多く、上端は幅1~4mmの石英脈が黄褐色変質化。これ以外には粘土、厚さ20~30mm

調査名		孔番・深度		観察日								
		01-1 (75 ~ 80)		4/3								
標尺 (m) ⁷⁵	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 FOD	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
75				10R 1/2 に 変質	d	VI	E	0	3	D		75.10 ~ 75.50 m 幅1~5mm 軟弱な白色粘土状の 網状に分布する。
76									0	2		75.50 ~ 76.75 m 硬さ「D」主体で硬さ「E」更に硬さ「E」の薄片が多く含む ようにする。 10~30° 割れ目と低角度割れ目の主体で、これに50~70° 割れ 目と低角度割れ目の斜交して直交する。 割れ目の一部は粘土化し、割れ目の前後10mm前後の軟弱な 白色粘土状に硬化する。 粘土化の層は幅2~5mmの長石斑痕が多量。
77			Gp	25R 1/2 灰褐色	c	V	D				C	
78									0	4		77.10 ~ 77.25 m 一部で軟弱な白色粘土が斑痕状に 幅1mmの脈状で分布し、他は全体が硬さ「D」に硬化 する。 77.25 ~ 77.75 m 硬さ「E」の薄片が主体で硬さ「D」 割れ目は幅1mmの軟弱な白色粘土状に硬化してEが多量。
79									0	4		77.75 ~ 78.77 m 10mm前後の硬さ「E」と硬さ「D」の薄片が混在し、全体の10 は割合に硬化した硬さ「E」が主体。10° 粘粒は一部で残留する。割れ目は消滅した。 78.20 ~ 78.40 m, 78.20 ~ 78.27 m に7.5~10mm前後の 硬さ「E」と硬さ「D」の薄片が残留し、10~30°と60~70°の消滅した 粘土状に硬化した粘粒が残留する。 粘粒は残留する薄片間に幅1~2mmの軟弱な粘土の脈状に 分布する。硬さ「E」の薄片は78.45 m 幅1mm前後で分布する。 78.77 ~ 79.19 m 破砕帯 HJ (主断面 79.19 m) 上部は硬さ「E」上部は消滅、下部は硬さ「D」で79.19 m 連続 粘粒は明確にある。割れ目は79.19 m, 54°以外に消滅する。 79.15 m 以下は硬さ「E」全体が割合に硬化する。 79.15 m 以下に幅1~3mm 約60°の軟弱な灰色粘粒が斑痕状に分布する。
80				25R 1/2 灰褐色	c	V	D				C	79.25 ~ 79.85 m 硬さ「E」主体で硬さ「D」10~30°と60~70°の約10mm前後の 粘粒が分布する。10mm前後の粘粒に含混している。 一部は幅0.5mmの白色粘土が分布する。硬さ「D」の分布は少ない。 79.85 m 50° 幅2mmの軟弱な白色粘粒 79.85 ~ 80.05 m 幅1~3mmの軟弱な粘粒が網状に分布し、全体が硬化層に

調査名		孔番・深度		D1-1 (80 ~ 85)		観察日		4/5				
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
05	82.08		Gp	2.5YR 6/2 灰褐色	d	v	E					<p>80.08 ~ 81.00 m</p> <p>互いに交差する40~60°割れ目が多く、φ5~20mmの硬土の薄片が豊富である。</p> <p>割れ目の一部は滑らかで、φ5mmの薄片に細片化している。一部割れ目は白色~10μm程度の粘土の付着が認められる。</p> <p>80.01~81.00mは硬土の上位より硬い粘土の薄片が豊富。</p>
	81.00				c	v	C	δ	3		CL	
81	81.20		Gp	10YR 7/4 灰黄緑			D					<p>81.00 ~ 81.20 m</p> <p>φ10~20mmの硬土の薄片が粘土の基盤に分布。基盤中に幅1~3mm程度の粘土の分布。</p>
	81.42				d	v	E				Hb	
05	81.70		Gp	10YR 6/2 灰褐色	c	v	D					<p>81.20 ~ 81.30 m: Hb</p> <p>上部40°、下部35°の上部は部分的に下部は部分的に連続したφ10~20mmの硬土とφ5~15mmの粘土化Gpの薄片を含む粘土の集積層で、81.24~81.27mには変質(10YR 7/4)、81.27~81.30mは浸染層(10YR 7/3)が存在。厚さ50~60mm</p> <p>81.30 m: Hc-1 (主断面)</p> <p>厚さ2~4mm、350°程度の石灰色(2.5YR 5/2)粘土</p> <p>81.30 ~ 81.42 m: Hb</p> <p>上部35°、下部60°、上部は部分的に下部は部分的に連続した粘土の集積層。圧縮後の幅1mm程度の粘土の薄片。φ1~3mmの硬土とφ5~20mmの粘土化Gpの薄片を含む集積層で、81.37m以下は浸染層(10YR 7/3)の存在が認められる。粘土は粘り強い。</p> <p>色調は、上部は10mm以下浸染層(2.5YR 7/3)、以下は10mm以下浸染層(10YR 7/3)である。厚さは120mm(07長)</p>
	82.08											
83	82.88		Gp	2.5YR 6/2 灰褐色	c	v	C	γ	2			<p>82.88 ~ 83.92 m</p> <p>上部は硬土の付着が認められる。粘土はφ5~10mmと大型の粘土に付着した長石斑晶が多い。粘土の集積層はφ5~10mmと粘土の付着が認められる。</p> <p>粘土の付着が認められる。粘土の付着が認められる。粘土の付着が認められる。</p> <p>40~70°割れ目と主断面の一部は割れ目のφ2~10mm程度の薄片に細片化している。粘土の付着が認められる。</p>
	83.92											
84	84.14		Gp	2.5YR 6/2 灰褐色	v							<p>84.14 ~ 85.00 m</p> <p>上部は割れ目の分布が認められる。粘土はφ5~10mmと大型の粘土に付着した長石斑晶が多い。粘土の集積層はφ5~10mmと粘土の付着が認められる。</p>
	85.00											
85												

調査名		孔番・深度		観察日								
		D1-1 (90~95)		4/9, 4/11, 4/18								
標尺 (m) ⁹⁰	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長 FOD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ					風化
05	90.00	✓	Gp	2.5YR 6/2 灰褐	c	v	D	2	CL		<p>粘板状粘土状で、粘土は軟弱〜中等、細い。 灰白色(10YR 8/1)を呈し、厚さは1.5~18mm。</p> <p>90.00~90.26m 30~50°に斜交〜近交する50~60割れ目あり。これらの割れ目に固径φ5~60mmの2連の「c」の薄片が多い。 割れ目の粘土は細粒粘土状に硬化している。</p> <p>90.26~90.89m 石灰岩帯</p>	
	90.26			FK		d	VI	E	3	D	HJ Hb	<p>90.26~90.31m: HJ 上端50°, 下端70°, 両者は連続的のD-70°に連続。</p> <p>φ5~10mmの大部分粘土状の粘板状と粘板間の一部に幅0.5~1mmの軟弱の白色粘板が分布。粘板は粘板状で、10YR 7/2を呈し、厚さ1.5~20mm。</p>
	90.31											
91	90.66	✓	Gp		c	v	C	3	CL		<p>90.37~90.66m: HJ 上端70°, 下端70°, 両者は連続的のD-70°に連続。 粘板は粘板化粘板(φ5~30mm)の粘板が分布。粘板は粘板状で、10YR 7/2~圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~35mm(27号)。</p> <p>90.66m: Hc-1 (主として西)</p> <p>75°傾き2mmの連続的のD-70°に連続。赤褐色(2.5YR 6/1)を呈し、軟弱の粘板。</p>	
	90.84	✓				d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>90.66~90.72m: Hb 上端75°, 下端60°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打50°に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片が多く含む硬質粘土で、粘土は中等。</p> <p>圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~20mmと粘板状。</p>
	91.26					c	v	C	3	CL		<p>90.72~90.89m: HJ 上端60°, 下端50°, 上端は滑打、下端は連続的のD-70°に連続。 φ5~20mmの一部硬質粘板と粘板間の粘板状粘土はGp粘板とφ2~3mmの石灰質粘板、粘板化粘土と粘板化粘土の粘板状粘土を伴う。 粘板は粘板状で、10YR 7/2を呈し、厚さは170mm(27号)。</p>
05	91.26		Gp	2.5YR 6/2 灰褐	c	v	C	3	CL		<p>90.84~91.26m 60~70°割れ目主体で、厚さ20~40mmの間隔で平行に分布。これらの割れ目に斜交〜近交する60~50°割れ目が多い。前者は粘板状の粘板に後者は粘板状(粘板厚2~5mm程度)。</p> <p>割れ目の一部には粘板の厚さ0.5~1mmの軟弱の粘板はあり。</p> <p>91.26~91.52m: 石灰岩帯</p>	
	91.52					d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>91.26~91.31m: Hb 上端60°, 下端65°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片と粘板状粘土を伴う硬質粘土で、粘土は中等。 境界は不明瞭。粘土は粘板状。</p> <p>10YR 7/4を呈し、厚さは20~40mm。</p>
	92	91.84		✓	FK		d	VI	E	3	D	Hb HJ
	92.00					c	v	C	3	CL		<p>91.84~92.00m: Hc-1 (主として西)</p> <p>75°傾き2mmの連続的のD-70°に連続。赤褐色(2.5YR 6/1)を呈し、軟弱の粘板。</p>
	92.24					d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>92.00~92.24m: Hb 上端75°, 下端60°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打50°に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片が多く含む硬質粘土で、粘土は中等。</p> <p>圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~20mmと粘板状。</p>
05	92.24		Gp	2.5YR 6/2 灰褐	c	v	C	3	CL		<p>92.24~92.40m: Hc-1 (主として西)</p> <p>75°傾き2mmの連続的のD-70°に連続。赤褐色(2.5YR 6/1)を呈し、軟弱の粘板。</p>	
	92.40					d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>92.40~92.56m: Hb 上端75°, 下端60°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打50°に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片が多く含む硬質粘土で、粘土は中等。</p> <p>圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~20mmと粘板状。</p>
	93	92.80		✓	FK		d	VI	E	3	D	Hb HJ
	93.20					c	v	C	3	CL		<p>92.80~93.20m: Hc-1 (主として西)</p> <p>75°傾き2mmの連続的のD-70°に連続。赤褐色(2.5YR 6/1)を呈し、軟弱の粘板。</p>
	93.40					d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>93.20~93.40m: Hb 上端75°, 下端60°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打50°に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片が多く含む硬質粘土で、粘土は中等。</p> <p>圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~20mmと粘板状。</p>
05	93.40		Gp	2.5YR 6/2 灰褐	c	v	C	3	CL		<p>93.40~94.00m: Hc-1 (主として西)</p> <p>75°傾き2mmの連続的のD-70°に連続。赤褐色(2.5YR 6/1)を呈し、軟弱の粘板。</p>	
	94.00					d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>94.00~94.24m: Hb 上端75°, 下端60°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打50°に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片が多く含む硬質粘土で、粘土は中等。</p> <p>圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~20mmと粘板状。</p>
	94	94.40		✓	FK		d	VI	E	3	D	Hb HJ
	94.80					c	v	C	3	CL		<p>94.40~94.80m: Hc-1 (主として西)</p> <p>75°傾き2mmの連続的のD-70°に連続。赤褐色(2.5YR 6/1)を呈し、軟弱の粘板。</p>
95	95.20					d	VI	E	3	D	Hb HJ	<p>94.80~95.20m: Hb 上端75°, 下端60°, 上端は連続的のD-70°, 下端は滑打50°に連続。 φ1~2mmの石灰質粘板と粘板化粘土φ5~10mmの薄片が多く含む硬質粘土で、粘土は中等。</p> <p>圧白色(10YR 7/1)を呈し、厚さは20~20mmと粘板状。</p>

調査名		孔番・深度		観察日								
		D1-1 (95 ~ 100)		4/11, 4/18								
標尺 (m) ⁹⁵	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
												<p>91.31 ~ 91.33 m: Hc-1 (主断面 91.31 m)</p> <p>上部63°, 下部63°, 上部は湾曲し、下部は波打て連続。 φ1.2mm 石英粒と φ5~20mm の粘土化 Gp 岩片と含有 碎塊状粘土で、粘土は 100 細目。 粘土色(2.5YR 6/1)を呈し、厚さ 2~15mm と片断状。</p> <p>91.33 ~ 91.52 m: HJ</p> <p>上部63°, 下部30°で、上部は波打て、下部は不明瞭に連続。 φ1.2mm の粘土化石英粒と Gp 岩片との割合、岩片間には白色~ 圧縮色軟弱粘土が分布する。 粘土層(一部粘土化)岩片状で、100 黄橙色 ~ 明赤色(2.5YR 7/1) を呈し、厚さは 190mm (コア長)。</p> <p>91.52 ~ 92.00 m</p> <p>径 0.2mm の φ10~30mm 岩片と岩片間の風化砂の基底を有する。 20~30°の割れ目と連続した部分に、粘土化の消滅した部分。 基底の一部は幅 1~3mm の軟弱な白色粘土層状に分布する。 91.74 ~ 92.00 m は φ5~10mm に碎片状。</p> <p>92.00 ~ 92.19 m:</p> <p>92.00 ~ 92.15 m 間は、上部より更に岩片は細片化 し、φ5~10mm 主片で、60°, 岩片自身も粘土化して 5~10mm。岩片間には幅 1~3mm の軟弱な白色粘土 脈が斜交に分布し、粘土層/岩片状を呈する。 92.15m 以下深部は更に粘土化が進み、50°幅 40 mm 程度の軟弱な黄褐色粘土状を呈する。 全体として、色調は 100 黄褐色の主片である。</p> <p>92.19 ~ 92.94 m</p> <p>92.38 ~ 92.66 m と深部、岩組織と割れ目はほぼ消滅し、岩は 軟化して、幅 1~2mm の軟弱な白色粘土 ~ 粘土脈を伴う。 92.38 ~ 92.66 m では 30~40°と 100 黄橙色 60~70°の割れ目的一部 が分布し、その一部は軟弱な白色粘土を伴う。 92.31 ~ 92.41 m は粘土層が増大する。</p> <p>92.94 ~ 93.12 m</p> <p>径 2mm の岩片の主片で、10~20°と 100 黄橙色 40~60°の割れ目 が分布する。割れ目の一部は幅 5mm の白色軟弱粘土を伴う。また、一部の 割れ目は湾曲した状態である。</p> <p>93.12 ~ 93.24 m: 2級碎屑</p> <p>93.12 ~ 93.20 m: Hb</p> <p>上部65°, 下部30°で、両者皆連続的に連続。 φ1.2mm 石英粒、粘土化した φ5~10mm の Gp 岩片と含有。 100 粘土化碎塊状粘土で、100 黄橙色(10YR 7/3)を呈し、厚さ 20~ 100mm と片断状。</p> <p>93.20 m: Hc-1 (主断面)</p> <p>30°幅 2mm 程度の連続的に連続する。灰褐色(2.5YR 6/2)を呈する 軟弱な粘土。</p> <p>93.20 ~ 93.24 m: Hb</p> <p>上部30°, 下部55°で、両者皆連続的に連続。 φ1.2mm 石英粒、粘土化した φ5~10mm の Gp 岩片と含有。 100 粘土化碎塊状粘土で、100 黄橙色(10YR 7/3)を呈し、厚さ 30mm</p> <p>93.24 ~ 93.43 m</p> <p>径 0.2mm の φ10 岩片の片断状。岩片間の基底は岩(軟化)を伴う。 基底中には幅 1~2mm の白色軟弱粘土脈が分布する。 92.41 ~ 92.43 m 間の一部は軟弱な白色粘土層</p>
95	95.23			d	VI	E	δ	3		D		
0.5				2.5YR 6/2 灰褐色								
96	96.28		Gp	c	V	C	γ	2				
0.5									0.5			
	96.77											
97	97.82											
0.5									0.5			
	97.80											
98	98.37											
0.5	98.44											
	98.70											
98				10YR 6/4 灰黄褐色								
	98.37											
	98.44											
	98.70											
99	99.37											
0.5	99.46			2.5YR 6/2 灰褐色								
	99.68											
	99.71											
99, 69												
100												

↓ 記事は次ページに続く

調査名		孔番・深度		観察日								
		01-1 (~)		4/2 記事04								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
												<p>93.43 ~ 94.40 m</p> <p>94.00 ~ 94.14 m は片状に割れ目著しく軟化部あり、これ以外は硬土の主体で、割れ目には幅 0.5 ~ 5 mm の軟弱な粘土脈を伴い、特に 94.14 m 以下では、70 ~ 80° の粘土脈が多量に分布する。</p> <p>割れ目は 10 ~ 30° と 70 ~ 80° の主体で、上記の粘土脈の厚さ、割れ目の幅は片状で薄く砂状化する。</p> <p>94.40 ~ 95.23 m</p> <p>概ね粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>95.23 ~ 95.76 m</p> <p>95.23 ~ 95.76 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>95.76 ~ 95.87 m</p> <p>95.76 ~ 95.87 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>95.87 ~ 95.97 m</p> <p>95.87 ~ 95.97 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>95.97 ~ 96.28 m</p> <p>95.97 ~ 96.28 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>96.28 ~ 96.79 m</p> <p>96.28 ~ 96.79 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>96.79 ~ 97.07 m</p> <p>96.79 ~ 97.07 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>97.07 ~ 97.40 m</p> <p>97.07 ~ 97.40 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>97.40 ~ 97.70 m</p> <p>97.40 ~ 97.70 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>97.70 ~ 98.23 m</p> <p>97.70 ~ 98.23 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>98.23 ~ 98.46 m</p> <p>98.23 ~ 98.46 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>98.46 ~ 98.70 m</p> <p>98.46 ~ 98.70 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>98.70 ~ 99.07 m</p> <p>98.70 ~ 99.07 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>99.07 ~ 99.46 m</p> <p>99.07 ~ 99.46 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>99.46 ~ 99.68 m</p> <p>99.46 ~ 99.68 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p> <p>99.68 ~ 99.71 m : 破砕帯</p> <p>99.68 ~ 99.69 m : Hc-2</p> <p>99.69 ~ 99.71 m : Hb</p> <p>99.71 ~ 100.00 m</p> <p>99.71 ~ 100.00 m は粘土に軟化した硬土で、割れ目硬土の厚さ 10 ~ 30 mm 程度を占める。粘土脈と割れ目は平均 1 ~ 2 mm 程度 (2 ~ 6°)。</p>

以上

H27-B-1

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		H27-B-1		4/19			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	マーカ-		地質名	色調	堆積構造・特徴等
			山灰物 炭土 貝木片	○ ▽ □ ◇			
		スケッチ					
	0.30m				盛土		0.00 ~ 0.30m 細〜中粒砂主体の盛土
	0.70m					10YR 5/3 黄砂	0.30 ~ 0.70m 径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土
	0.90m						0.70 ~ 0.90m 径0.5~1.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土
1.00m							0.90 ~ 1.80m 径1.0~4.0cmの礫が主体の盛土
	1.80m						1.80 ~ 2.40m 径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土
2.00m							2.40 ~ 3.00m 径1.0~4.0cmの礫が主体の盛土
	2.40m						
	3.00m				*スライム 盛土		3.00 ~ 4.00m スライムにより判別不可
4.00m							

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日		
		H27B-1		6/19		
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	マーカ- 火山灰物 土質 化石 木片	地質名	色調	堆積構造・特徴等
	4.10		盛土	スライム	7.5YR 7/2 明福灰	4.00~4.10m スライムにより判別不可
	4.30			砂礫	10YR 7/5 黄砂	4.10~4.30m 礫率60%の砂礫で、くさり礫と半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂
	4.40		半くさり礫 (2.5YR 7/2)	礫	4/3 混(リ)砂	
	4.65			砂	7.5YR 6/2 灰褐	4.30~4.65m 礫率20~30%で、半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 4.40~4.50m付近に粘土状の粗粒部が認められる。 酸化層理が認められる
	5.00			GP		4.65~6.60m 礫率60~80% 砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂 4.65~5.85m付近は径8mm以上の巨礫が多く含まれる。 5.40~5.60m付近で一部礫に明赤灰(2.5YR 7/1)や明福灰(7.5YR 7/1)、極暗赤褐(2.5YR 2/3)が認められる。 6.15~6.30m付近は径8mm以上の巨礫が著しく減少す。 6.30~6.60m付近は径8mm以上の半くさり礫の巨礫が多く含まれる。
	5.30					
	6.00					6.60~6.80m スライムのため判別不可 6.80~7.15m 礫率20~30%で、半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂
	6.60					
	6.80					7.15~7.30 有機物を多く含む腐食土壌
	7.00					
	7.15					7.30~7.55 礫率20~30%で、半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂
	7.30					
	7.55					7.55~8.00 スライムのため判別不可

石礫種はGP
石礫径は2~30mmの
亜角石礫主体

石礫種はGP
石礫径は2~30mmの
亜角石礫主体

石礫種はGP
石礫径は2~50mmの
亜角石礫~亜角石礫主体
一部最大径200mmの
巨礫あり

石礫種はGP
石礫径は2~30mm
の亜角石礫主体

石礫種はGP
石礫径は2~30mmの
亜角石礫主体

スケッチ: 礫はくさり● 半くさり◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭— 不明瞭- - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日			
		H27B-1	6/20 6/22			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	マーカ	地質名	色調	堆積構造・特徴等
		スケッチ	火山灰物 炭質土 化石 貝片			
	8.60				10YR 6/2 ✓ 灰黄褐	8.00 ~ 8.60 m スライムのため判別不可
9.00	9.10	← スライム		砂岩	10YR 6/6 ✓ 明黄褐	8.60 ~ 9.50 m ・石炭率 30 ~ 40% でワカリ石炭 や半ワカリ石炭を多く含む ・砂は径 0.5 ~ 1.0 mm の粗粒砂
	9.50	湖層上部 全体傾斜 55° 弱			10YR 6/1 褐灰	・8.75 ~ 8.85 m 付近はスライムのため判別不可 ・9.25 ~ 9.35 m 付近に黒色土(土壤)に挟まれた砂層が認められる ・黒色土層砂層共に 55° 傾斜し、全体の幅は 10 cm (黒色土層 4 cm, 砂層 2 cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる
10.00	10.00				10YR 6/2 ✓ 灰黄褐	9.50 ~ 10.00 m スライムのため判別不可
	10.65	GP AP		砂岩	10YR 5/6 黄褐	10.00 ~ 10.65 m ・石炭率 70 ~ 80% で半ワカリ石炭を一部含む ・砂は径 0.5 ~ 2.0 mm の極粗粒 ~ 粗粒砂 ・径 0.5 ~ 1 cm の石英が多く含まれる
11.00	11.05				10YR 6/2 灰黄褐	10.65 ~ 11.05 m スライムのため判別不可
	11.85	GP GP		砂岩	7.5YR 6/3 黄褐	11.05 ~ 11.85 m ・石炭率 50 ~ 60% でワカリ石炭へ半ワカリ石炭を含む ・砂は 0.5 ~ 2.0 mm の粗粒 ~ 粗粒砂 ・径 0.5 ~ 1 cm の石英が多く含まれる
12.00	12.00				10YR 8/3 灰黄褐	11.85 ~ 12.00 m スライムのため判別不可

石炭種 GP
石炭径 2 ~ 30 mm の
亜角礫 ~ 亜円石炭主体

石炭種 GP 一部 AP 含む
石炭径 2 ~ 10 mm の亜角礫
~ 亜円石炭主体
一部最大径 200 μm の
巨石炭あり

石炭種 GP
石炭径 2 ~ 100 μm の
粗粒砂
亜角礫 ~ 亜円石炭主体

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等